

私たち学校運営協議会では、地域の力を学校運営に活かす「地域とともにある学校づくり」を推進するため、学校と連携・協力し、より良い教育現場の実現に向けて活動しております。

教職員との合同研修会に参加しました。

去る7月25日に学校運営協議会を開催いたしました。今回は会議ではなく、教職員の方々との交流を深めるという目的もあり、我々協議会メンバーが教職員の中に混じり行われました。

研修の内容は「描画から子供の心に触れる」という内容で、スクールカウンセラーの本田 麻（ほんだあさ）氏を講師として迎えご教授いただきました。

内容は、複数のグループに分かれ、ワーク形式で講師の本田先生が指示するお題に従いA4の紙に懐かしいクレパスを使い絵を描くというものです。

絵を書くのは何十年ぶりだろうか、絵は苦手だ、しかもクレパスだ。

まずは紙に「枠」を書いてくださいと指示される。次に「川」を描いて下さい、それから「山」を描いてください、そして「田」「家」「木」「コンクリート造りのもの」「人」「動物」「花」など、順番はよく覚えていないが、次々にお題が出される。さすが学校の先生方だ、同じグループの方たちの絵はかなりの出来栄だ。私は下手な絵で恥ずかしさを抑えながら言われるがままにクレパスを動かした。とても人様に見せれるような絵ではなかったが、なんとそれぞれ自分の描いた絵をグループの方々に見せて、その絵についてディスカッションをするというものでした。「この家素敵だね」「何でこの色使いにしたの?」「この動物は何?」「何をイメージしたの?」という具合にである。次に各グループでこのセミナーで得た事や感想をディスカッションして、最後にグループの代表が全体に発表するという流れでセミナーは行われました。

子供は自分の思っている事を言語化するのがまだまだ苦手であることが多いので、絵を通して子供とのコミュニケーションをとり、子供の心を読み取るという事がねらいだと講師の本田先生は仰っておられました。

絵の最初に書いた「枠」にも意味があり、決められた（限られた）枠の中で自分をどう表現できるのか、枠の中にはみ出さずに描ける人、そうでない人もいます。枠も四角とは限らないなど、心理学的に分析すると様々な心の状態を分析できるのだらう。

セミナー風景の写真を撮り忘れたので、教頭先生にお願いして教職員さんの描いた作品をご紹介します。

